

公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会（JMSCA）
2021年度自然保護委員総会・全国自然保護委員長会議

日時：2022年3月6日（日）13：00～17：00（ZoomによるWEB会議）

I. 開会式

開会宣言	JMSCA 自然保護委員会副委員長	小島 和徳
参加者確認		小島 和徳
主催者挨拶（ビデオメッセージ）	JMSCA 会長	丸 誠一郎
主催者挨拶	JMSCA 自然保護委員会主管理事	前田 善彦

II. 議 事

JMSCA 自然保護委員会の活動説明	自然保護委員会常任委員	堀江 伸子
JMSCA 自然保護委員会の決算・予算について	自然保護委員会常任委員	猪狩 ノブ
自然保護指導員登録状況と課題	自然保護委員会常任委員	松隈 豊
事前アンケート総括	自然保護委員会 委員長 自然保護委員会常任委員	小高 令子 田上 正敏 小島 和徳

〈 休 憩 〉 14:20～14:35

事前アンケートから見てきたこと、 常任委員会からの提案	小高 令子
--------------------------------	-------

自由討議

取り纏め	小高 令子
大会スローガン採択	小高 令子

III. 次期総会開催について

小島 和徳

IV. 閉会宣言

自然保護委員会常任委員 岡田 博行

2021年度自然保護委員総会 出席者一覧 (3月6日)

JMSCA会員・役員・委員				
JMSCA	会長	丸 誠一郎	ビデオ	
JMSCA	副会長	高野 孝子		
JMSCA自然保護委員会	主管理事	前田 義彦		
JMSCA自然保護委員会	担当理事	小竹 靖高		
JMSCA自然保護委員会	委員長	小高 令子		
JMSCA自然保護委員会	副委員長	小島 和徳		
JMSCA自然保護委員会	常任委員	田上 正敏		
JMSCA自然保護委員会	常任委員	堀江 伸子		
JMSCA自然保護委員会	常任委員	岡田 博行		
JMSCA自然保護委員会	常任委員	猪狩 ノブ		
JMSCA自然保護委員会	常任委員	濱田 伸		(欠席)
JMSCA自然保護委員会	常任委員	松隈 豊		
JMSCA自然保護委員会	常任委員	岩崎 繁夫		
JMSCA自然保護委員会	専門委員	増田 修		
JMSCA自然保護委員会	専門委員	千葉 弓子		
JMSCA自然保護委員会	専門委員	八木 滋		
JMSCA自然保護委員会	専門委員	伊藤 篤子		
(公社) 東京都山岳連盟	自然保護委員	阿部 幸子 (総会スタッフ)		

2021年度自然保護委員総会 出席者一覧 (3月6日)

山岳（・SC）連盟（協会）		氏名	
北海道山岳連盟	自然保護委員長	増子 麗子	
青森県山岳連盟	自然保護委員長	古本 陽子	
宮城県山岳連盟	副会長	村上 美智子	代理
山形県山岳連盟	自然保護委員長	井上 邦彦	
茨城県山岳連盟	理事長兼自然保護委員長	中沢 隆一	
群馬県山岳連盟	自然保護委員長	岡本 隆	
(一社) 埼玉県山岳・スポーツライミング協会	自然保護委員長	長谷川 茂	
(一社) 千葉県山岳・スポーツライミング協会	自然保護委員長	濱田 伸 (常任委員)	
(公社) 東京都山岳連盟	自然保護委員長	岡田 博行 (常任委員)	
神奈川県山岳連盟	自然保護委員長	芹澤 尚敬	
山梨県山岳連盟	自然保護委員長	中川 恵美子	(欠席)
新潟県山岳協会	自然保護委員長	伊藤 直	
長野県山岳協会	自然保護委員長	赤梅 琴美	
富山県山岳連盟	自然保護委員長	金川 千尋	
(一社) 静岡県山岳・スポーツライミング連盟	副会長兼自然保護委員長	前川 朝夫	
愛知県山岳連盟	自然保護委員長	栗木 洋明	
三重県山岳・スポーツライミング連盟	自然保護副委員長	橋川 弘子	代理
(一社) 京都府山岳連盟	自然保護委員長	山本 憲彦	
(一社) 大阪府山岳連盟	自然保護委員長	田中 昭男	
兵庫県山岳連盟	自然保護委員長	日野 幸次郎	
奈良県山岳連盟	理事長	前田 義彦 (主管理事)	代理
和歌山県山岳連盟	自然保護委員長	横出 俊一	
鳥取県山岳・スポーツライミング協会	自然保護委員長	松塚 明則	
島根県山岳連盟	自然保護委員長	三成 敏雄	
(一社) 岡山県山岳・スポーツライミング連盟		小林 陽祐	代理
(一社) 広島県山岳・スポーツライミング連盟		三村 孝治	代理
徳島県山岳連盟		藤川 敏光	代理
愛媛県山岳・スポーツライミング連盟	自然保護委員長	森岡 郁雄	
高知県山岳連盟	自然保護委員長	鎌倉 正則	(欠席)
福岡県山岳連盟	理事長	山上 司	代理
鹿児島県山岳・スポーツライミング連盟	自然保護委員長	下内 幸一	
沖縄県山岳連盟	理事長	田場 典淳	代理

2019年～2021年度活動概要について

2019-2021年度 自然保護委員会会議録概要

2019.11.9 11月度委員会

- イ) 開催なし 自然保護委員総会と兼ねる

2019.12.19 12月度委員会

- イ) 2020年度自然保護委員総会決算書
- ロ) 2020年度 事業計画・予算について

2020.1.11 1月度委員会

- イ) 2019年度総会の反省
- ロ) 2020年度自然保護委員総会決算書について(了承)
- ハ) 2020年度自然保護委員総会の加盟団体活動発表(概要まとめと質疑まとめ表)の公表

2020.2.20 2月度委員会

- イ) 山岳団体自然環境連絡会主催第3回山岳自然セミナー(要項) 3/29 オリセン
- ロ) 第10回自然保護指導員研修会実施報告について 1/25 オリセン 71名参加
- ハ) 山岳自然環境研究会について
 - ① 山梨 三つ峠(2020.6.20～21)
 - ② 秩父 武甲山(2020.9月上旬) 鉱山視察
- ニ) 2020年度自然保護委員総会について 2021.11.7 オリセン予定
- ホ) 第11回自然保護指導員研修会 2021.1.30 オリセン(中止)
- ヘ) 自然保護指導員出前講座 2件(予定)

2020.3.15～ 緊急事態宣言により以降の委員会の開催中止

2021.2.7 ズームにてリモート会議

2021年度の会議はCOVID-19感染拡大防止のため4月～9月開催していません。

2021.10.6 21年度第1回委員会(zoom開催)

- イ) 2021年度自然保護委員会メンバーの確認について
- ロ) 2021年度委員長の選出について
- ニ) 「自然保護の集い」の開催について

2021.10.21 10 月度委員会 (zoom 開催)

- イ) 委員会メンバーの承認について
- ロ) 委員総会の開催日時と内容についての協議

2021.11.18 11 月度委員会 (zoom 開催)

- イ) 委員総会の日程 3/6(日) 基調講演は予定なしとする。
- ロ) 総会の共通テーマ及びアンケート案について
- ハ) 環境省自然公園指導員の登録更新について
- ニ) 自然保護指導員研修会について(1/29 オリセン)
- ホ) 自然保護指導員更新及び新規登録受付について
- ヘ) 山岳団体自然環境連絡会参加報告について

2021.12.16 12 月度委員会 (zoom 開催)

- イ) 委員総会の開催通知及び事前アンケートは都道府県山岳連盟(協会)に送付済
- ロ) 総会に向けての当委員会の各作業の役割分担について
- ハ) 総会の Hybrid 開催の会場選定について
- ニ) 自然保護指導員研修会(1/29) zoom 会議で最大 100 人で実施の方針
- ホ) 自然保護指導員更新及び新規登録受付について

2022.1.15 1 月度委員会 (アルカディア 4 階及び zoom 開催)

- イ) 2022 年度計画(案)及び予算案の提出完了
- ロ) 委員総会(3/6)の東京会場についての検討⇒2月に最終案内
- ハ) 自然保護委員会の活動について登山月報 12月号・1月号に掲載(委員長)
- ニ) 自然保護指導員研修会(1/29)の案内完了 100名枠撤廃
- ホ) アンケートの回収・集計の分担について

2022.2.17 2 月度委員会 (zoom 開催)

- イ) 総会に向けた詳細スケジュールの確認
- ロ) 当日のプログラム
- ハ) アンケート集計結果とアンケートの総括 → 総会での報告の形態について
- ニ) 自由討議の進め方について
- ホ) 自然保護指導員更新及び新規登録受付について
- ヘ) 2021 年度自然保護指導員研修会・公開講演会報告

※月例で開催の山岳団体自然環境連絡会(労山、JAC、JMCA、都岳連、山宝クラブ、ガイド協会の6団体で構成)に委員を派遣し、情報交換を行う。

2020 年度自然保護委員会の構成

役職	氏名
主管理事	安藤武典
委員長	松隈豊
副委員長	西山常芳 堀江伸子
事務局長	小高令子
会計・指導員関係	猪狩ノブ
常任委員	田上正敏、手塚福寿、濱田伸、小林貞幸、岩崎繁夫
専門委員	廣田博、岡田博行、小島和徳、増田修、千葉弓子、湯浅達男、伊藤篤子 八木茂

2021 年度自然保護委員会の構成

役職	氏名
主管理事	前田善彦
担当理事	高野孝子 小竹靖高
委員長	小高令子
副委員長	西山常芳、小島和徳
事務局長	小島和徳
会計・指導員関係	猪狩ノブ
常任委員	松隈豊、田上正敏、堀江伸子、濱田伸、岩崎繁夫、岡田博行
専門委員	増田修、千葉弓子、伊藤篤子、八木茂

開催行事の概要

第 10 回自然保護指導員研修会

開催日	2020 年 1 月 25 日(土)
場 所	オリンピック記念青少年総合センター (東京・代々木)
参 加	71 名(首都圏加盟団体等)
概 要	自然保護指導員研修制度の仕組みについて 基調講演：石井誠治氏 (森林インストラクター)

山岳団体自然環境研究会

開催日	2020 年 6 月中旬
場 所	山梨県 三ツ峠山
概 要	COVID-19 感染拡大のため計画を断念

山岳団体自然環境研究会

開催日 2020年9月上旬
場 所 埼玉県 武甲山
概 要 COVID-19感染拡大のため計画を断念

常任委員懇談会

開催日 2020年9月26日～27日
場 所 奥多摩 鴨沢山の家
参 加 10名
概 要 地球温暖化防止対策について 自然保護委員会のできることなどについての懇談

第44回山岳自然保護の集い

開催日 2020年11月7日～8日
場 所 オリピック記念青少年総合センター（東京・代々木）
概 要 COVID-19感染拡大のため中止

常任委員懇談会

開催日 2020年12月6日～7日
場 所 御岳山 宿坊「南山荘」
参 加 10名
概 要 JMSCA自然保護委員会の今後の活動などについての懇談

第6回自然保護指導員出前講座

開催日 2020年 未定
概 要 COVID-19感染拡大のため計画を断念

第11回自然保護指導員研修会

開催日 2021年 1月 未定
概 要 COVID-19感染拡大のため計画を断念

自然保護指導員出前講座（2件）

開催日 2021年 未定
概 要 COVID-19感染拡大のため計画を断念

自然保護指導員 研修会・公開講演会

開催日 2022年1月29日

場所 オンライン配信（zoom）により実施

参加者 83名

概要 自然保護指導員制度について

基調講演：森 孝順氏（山はみんなの宝クラブ副代表）

関係団体との活動の概要

環境省（自然公園指導員）

- ◇ 自然公園指導員の推薦（2020年度から2021年度任期で34名を受嘱、新任11名）
- ◇ 自然公園指導員の年間活動状況報告を取りまとめて省へ報告
- ◇ 自然環境局長表彰（自然公園指導員永年功労者）：2020年度 2名

山岳団体自然環境連絡会（労山、JAC、JMGA、都岳連、山宝ク、JMSCAの6団体で構成）

- ◇ 月例の会合など
- ◇ プロジェクト活動（山の野生鳥獣目撃レポート、山岳自然環境セミナーなど）

日本オリンピック委員会 スポーツ環境専門委員会

- ◇ 「スポーツと環境会議」への参加・協力
- ◇ スポーツ環境専門委員会活動報告書への投稿協力

2022年度の活動方針（案）について

活動方針案

- 1) 登山活動による環境負荷や地球温暖化（気候変動）の影響を受けている山岳自然の現状を把握し自然保護活動及び他団体と連携した活動を推進する。
- 2) 自然保護指導員制度の普及と組織の充実・活動の促進。
- 3) COVID-19の感染拡大防止で中止となった活動項目の再開を検討。
- 4) 上記の活動をSDGsな視点から再点検し、全国の自然保護委員会と連携して活動の問題点等を検証、また成果を広報していく、

事業案

研修及び研究会の企画

- 1) 2022年度自然保護委員総会（リアルおよびWeb利用の会議&講演会）
2022年6月を予定
- 2) 2022年度山岳自然環境研究調査
神奈川県岳連主導の下に丹沢三ノ塔での森林再生活動
2022年5月下旬及び11月上旬を予定
- 3) 自然保護指導員フィールド研修会
2022年冬期 愛鷹連峰越前岳を予定
テーマは「登山道について考える」
- 4) 自然保護指導員研修会（リアルおよびWeb利用の会議）
2023年1月を予定
都岳連主管の指導員更新研修会
- 5) 自然保護指導員出前講座
講師派遣 随時
全国の自然保護指導員に対する活動サポートおよび都道府県山岳（・SC）連盟（協会）への山岳環境保全活動の普及事業

自然保護の啓もう

- 1) 自然保護指導員制度の推進
- 2) 自然保護広報資料の出版（トイレゴミ持ち帰りパンフ増刷）
- 3) 全国環境月間（6月）の協力
- 4) 山岳自然保護活動の集約と広報 「登山月報」への【自然保護委員会のSDGsな活動】連載

関係団体との連携

- 1) 環境省・自然保護指導員制度への協力
- 2) 山岳団体自然環境連絡会への参加
- 3) 日本オリンピック委員会主催「スポーツと環境会議」への参加協力

2021年度

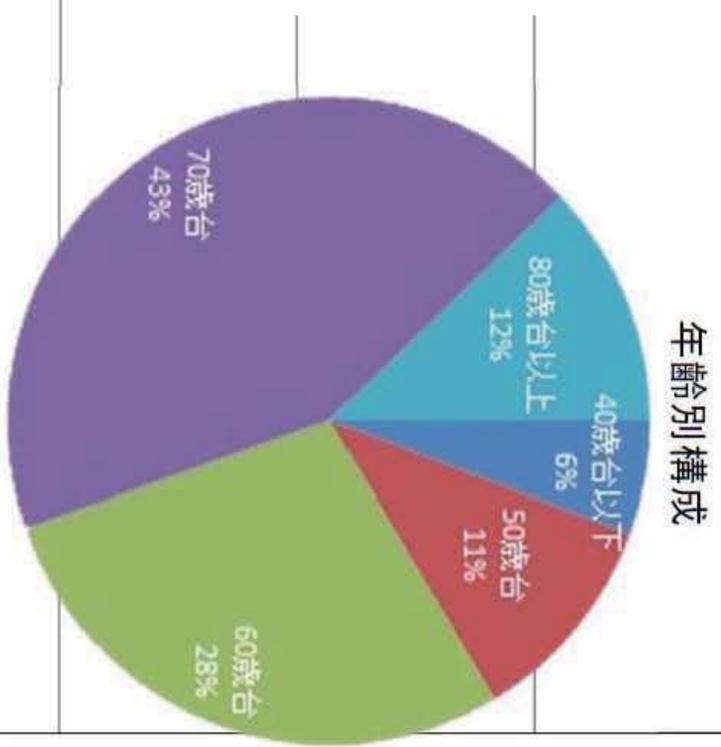
区分(委員会)	期日A	期日B	場所	事業名(会計科目名)	R3支出予算	2021.4~ 2022.1 支出実績	支出予算差異	2~3月見込	主な支出実績						計	(2~3月支出内訳)
									旅費	賃貸・リース料	大会施設費用	委託費	諸謝金	その他支出		
④自然保護	2022/3/6		WEB	①委員総会・全国委員長会議	1,000,000	0	1,000,000	120,000	0	0		0	0	0	0	理事、委員長等のJMCA事務局集合、機器借出
	2022/1/29		WEB	②自然保護指導員研修会	30,000	0	30,000	30,000	0	0		0	0	0	0	1/29研修会委託
	中止			③自然環境研修会(2回)	300,000	0	300,000	0	0	0		0	0	0	0	
				④自然保護指導啓発・制度推進	600,000	64,932	535,068	150,000	0	0		0	0	64,932	64,932	発送作業、印刷製本、岳連付金
	中止			⑤山岳自然環境研究調査	37,000	0	37,000	0	0	0		0	0	0	0	
	計画無し			⑥国際自然保護研修会	0		0		0	0		0	0	0	0	
				⑦委員会管理	709,000	22,110	686,890	100,000	0	0		0	0	22,110	22,110	1月委員会会場費、Acrobat Pro Dcソフト購入等
			計	2,676,000	87,042	2,588,958	400,000	0	0	0	0	0	87,042	87,042	理事、委員長等のJMCA 機器借出し	

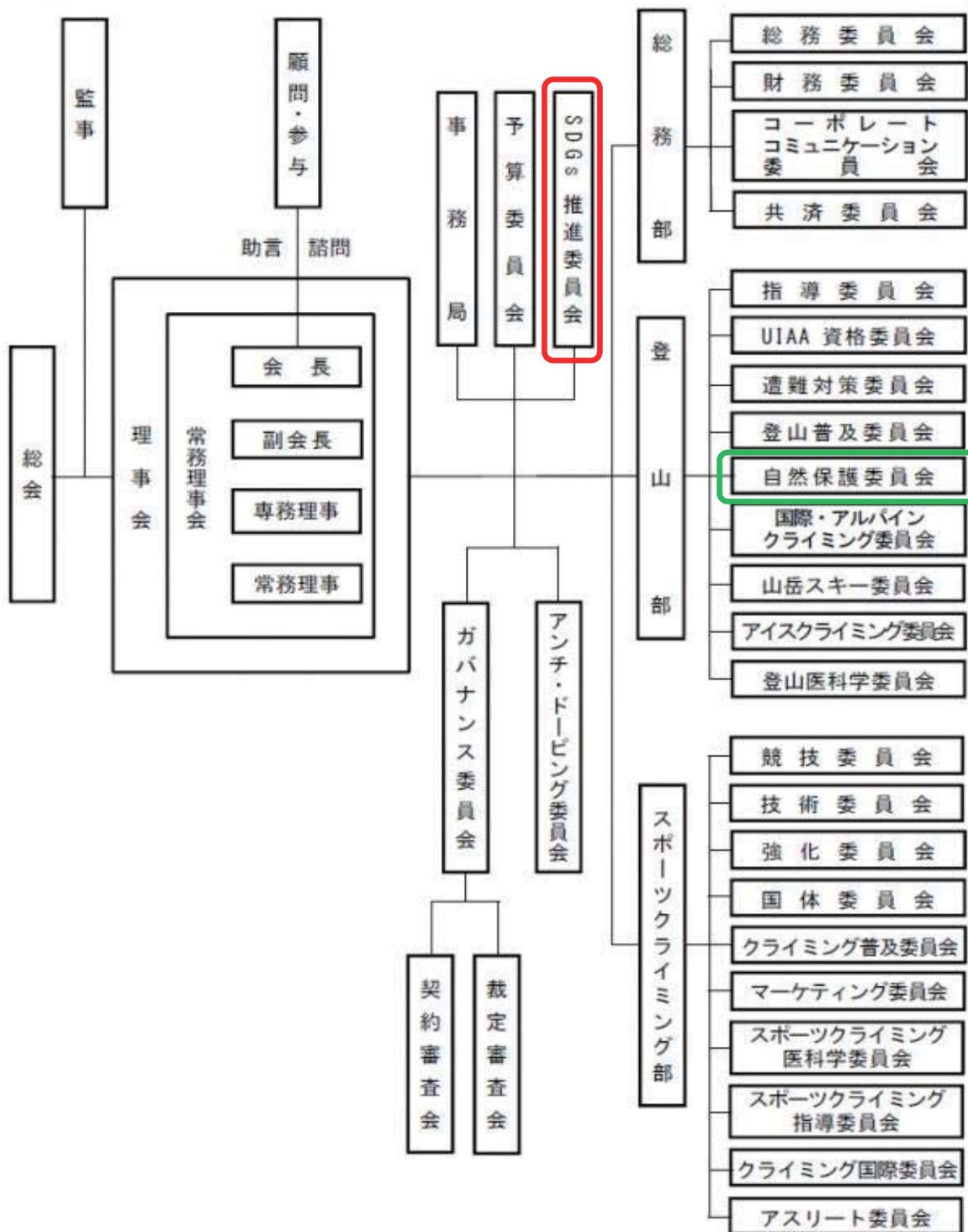
2022年度案

区分(委員会)	期日予定	場所	事業名(会計科目名)	R4支出予算	支出予算差異	主な支出実績						計
						旅費	賃貸・リース料	大会施設費用	委託費	諸謝金	その他支出	
④自然保護	2022年6月		①第45回委員総会	300,000		0	0	0	0	0	0	0
	2023年1月		②第12回自然保護指導員研修会	60,000		0	0	0	0	0	0	0
	2022年度冬季		③自然保護指導員フィールド研修会	300,000		0	0	0	0	0	0	0
			④自然保護指導啓発・制度推進	600,000		0	0	0	0	0	0	0
	2022年5月・11月		⑤山岳自然環境研究調査(2回)	39,500		0	0	0	0	0	0	0
	計画無し		⑥国際自然保護研修会	0		0	0	0	0	0	0	0
			⑦委員会管理	328,000		0	0	0	0	0	0	0
		計	1,627,500		0	0	0	0	0	0	0	

(人)

2021年度自然保護指導員 登録状況





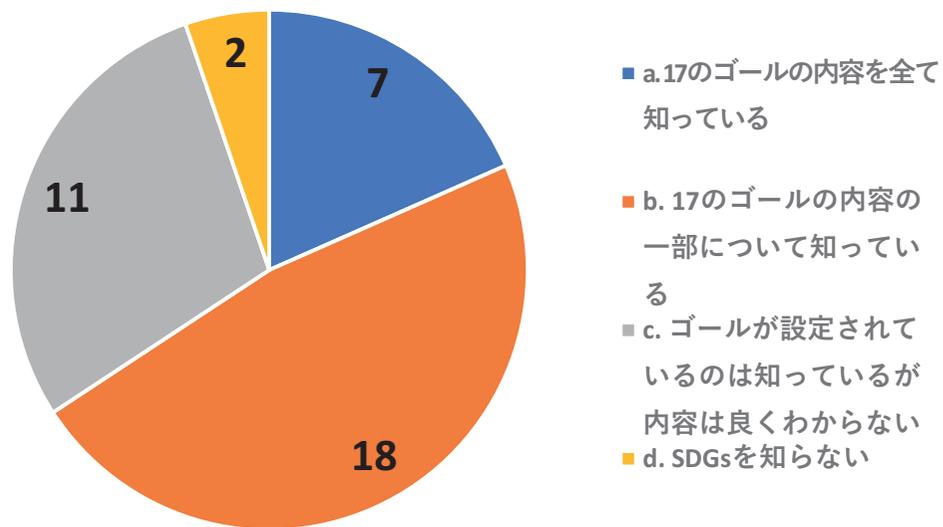
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD



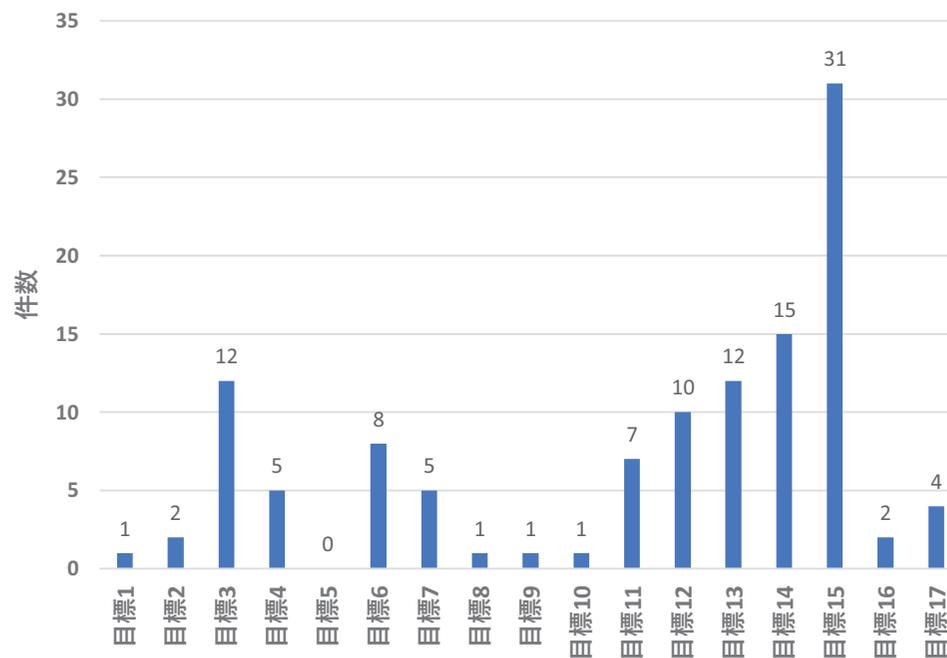
アンケート1 集計結果 (回答38都道府県)

1. SDGsの17の目標（ゴール）の内容をどの程度知っていますか？



有効回答：38

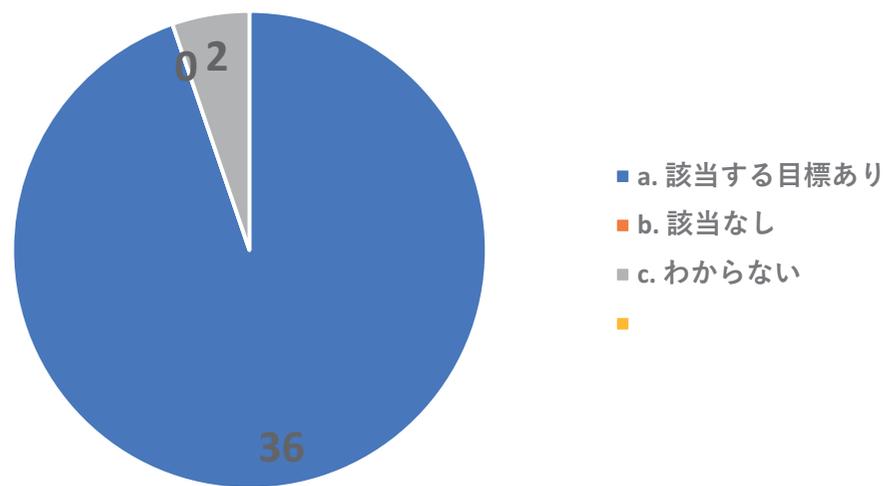
2. 自分たちの自然保護活動は、SDGsのいずれの目標に結びついていると思いますか？



有効回答：38

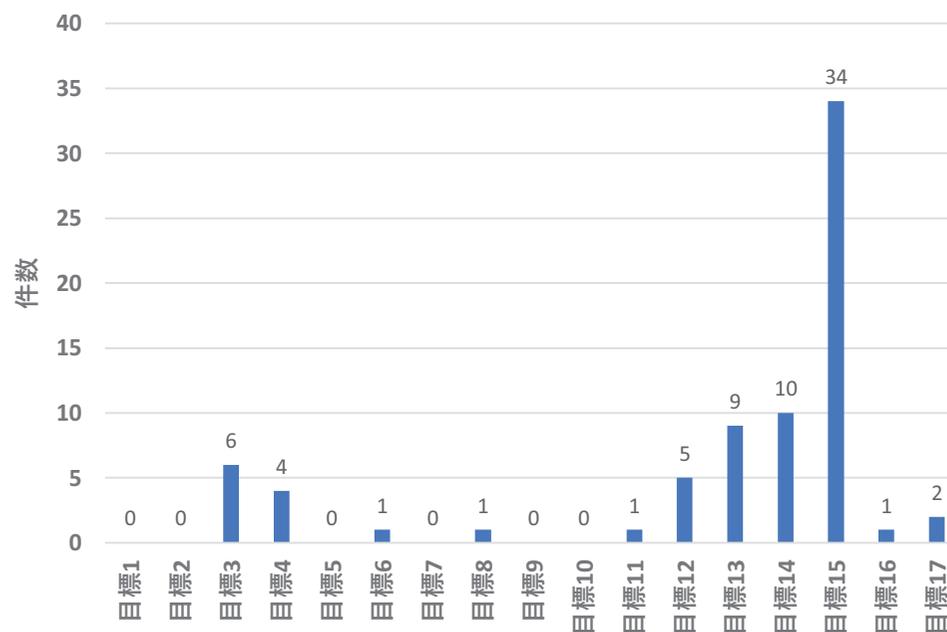
アンケート1 集計結果 (回答38都道府県)

3. 自分たちが今後取り組んで行きたいと思う、または継続していきたいと思うSDGsの該当する目標はありますか？



有効回答：38

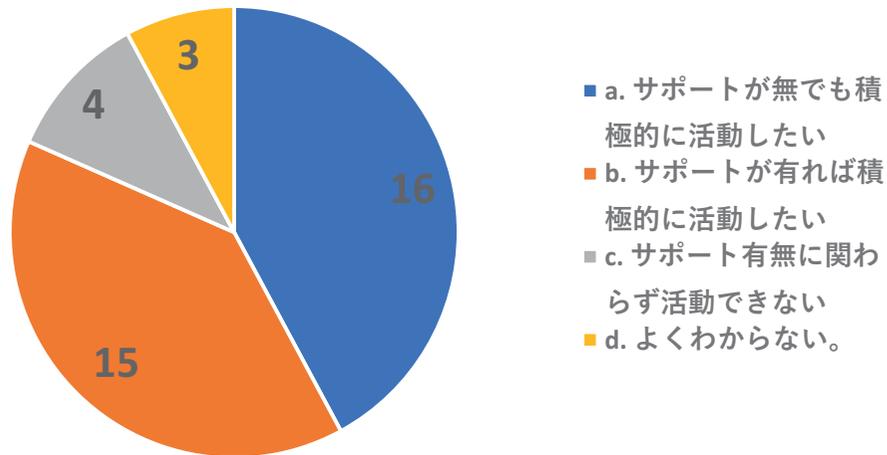
3a. 該当する目標



有効回答：38 (複数回答)

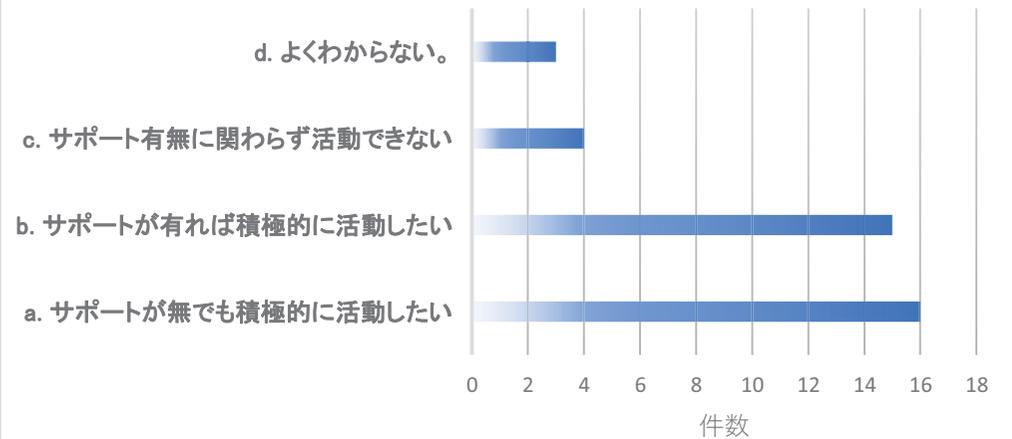
アンケート1 集計結果 (回答38都道府県)

4. 「森林の整備」を全国的に展開しその推進をサポートする件について



有効回答：38

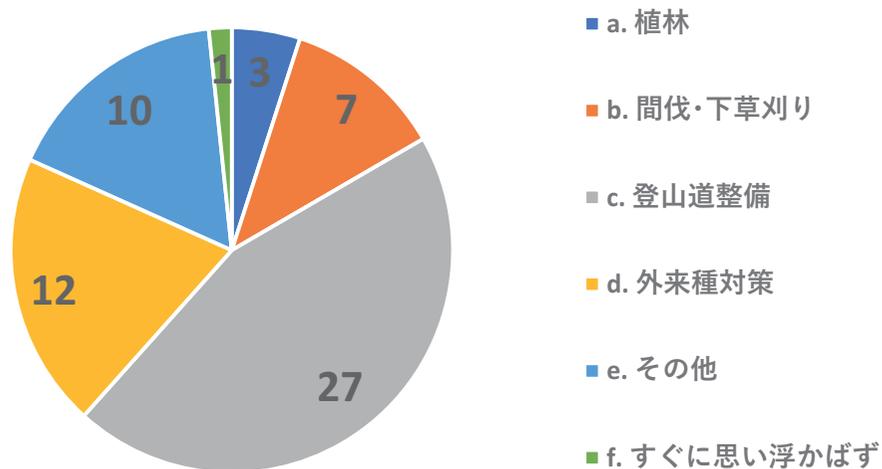
4. 「森林の整備」を全国的に展開しその推進をサポートする件について



有効回答：38

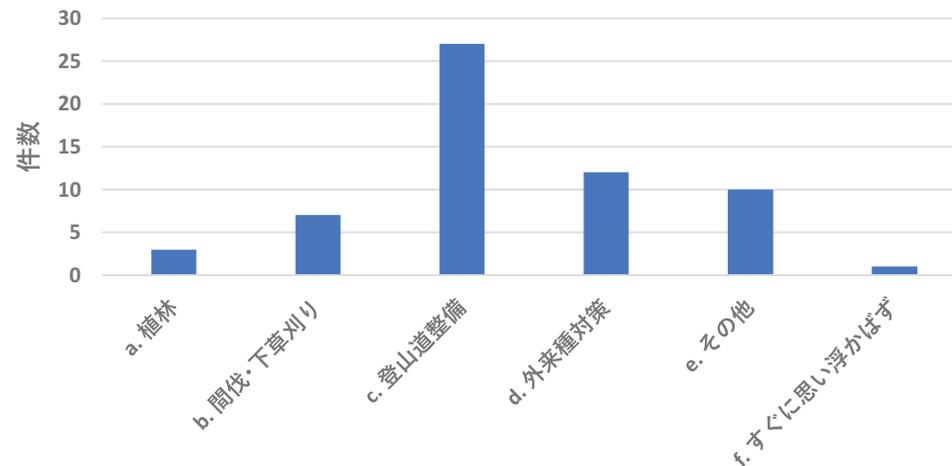
アンケート1 集計結果 (回答38都道府県)

5a. 今後取り組み可能な森林整備の活動はどれですか？



有効回答：38 (複数回答)

5a. 今後取り組み可能な森林整備の活動はどれですか？



有効回答：38 (複数回答)

e：その他

→ 「現況調査」, 「高山植物保護活動」, 「下床植生の回復」, 「シカの食害対策」, 「害獣(シカ)からの植生保護・裸地化防止対策」, 「すでにこの50年間森林を中心にその登山道の整備や清掃に邁進している」, 「豪雪地山岳における木道等の整備及び耐積雪グライド工法の開発・実証試験」, 「登山道のゴミ拾い」, 「登山コースのごみ拾い(動物が間違っても食べないように!)環境を維持する。」, 「自然公園内の人による影響を最小限に押さえる為のトイレの整備・維持・管理」

事前アンケート (2) 質問様式

貴自然保護委員会のこれまでの各種活動及び今後予定されている活動がSDGsのどの項目に当てはまるのか、またそれらの活動の課題について記入ください。

「JMSCA 自然保護委員総会」事前アンケート(2)		各種活動	課題・目標
目標 (ゴール)	各ターゲットの要約	各種活動	課題・目標
		例 金山道の下草刈り (15.1) 裸地化した山の斜面の植生回復 (15.1, 15.2, 15.4) 特定外来生物オオハシゴソウの駆除 (15.1, 15.4, 15.5)	例 メンバーの高齢化による参加者の減少 資金不足から継続的な活動が困難、参加者に交通費の補助をしたい 特定地域だけでは効果がない
目標 1 5	15.1 森林、湿地、山地及び乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸水生態系の保全、回復及び持続可能な利用を確保する。		
	15.2 森林の持続可能な経営の奨励を促進し、森林減少を阻止し、劣化した森林を回復する。新規植林及び再植林を大幅に増加させる。		
	15.3 2030年までに、砂漠化に対処し、砂漠化、干ばつ及び洪水の影響を受けた土地などの劣化した土地と土壌を回復し、土地劣化に荷担しない世界の達成に尽力す		
	15.4 山地生態系の能力を強化するため、生物多様性を含む山地生態系の保全を行う。		
	15.5 自然生息地の劣化を抑制し、生物多様性の損失を阻止し、絶滅危惧種を保護し、また絶滅防止のための対策を講じる。		
	15.6 国際合意に基づき、遺伝資源の利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分を推進するとともに、遺伝資源への適切なアクセスを推進する。		
	15.7 保護の対象となっている動植物種の回復及び違法取引を撲滅するための緊急対策を講じるとともに、違法な野生生物製品の需要と供給の両面に対処する。		
	15.8 外来種の侵入を防止するとともに、これらの種による生態系への影響を大幅に減少させるための対策を導入。さらに優先種の駆除または根絶を行う。		
	15.9 2020年までに、生態系と生物多様性の価値を、国や地方の計画策定、開発プロセス及び貧困削減のための戦略及び会計に組み込む。		
	15.a 生物多様性と生態系の保全と持続的な利用のために、あらゆる資金源からの資金の動員及び大幅な増額を行う。		
15.b 保全や再植林を含む持続可能な森林経営を推進するため、あらゆるレベルのあらゆる供給源から、持続可能な森林経営のための資金の調達と開発途上国への十分なインセンティブ付与のための相当量の資源を動員する。			
15.c 持続的な生計機会を追求するために地域コミュニティの能力向上を図る等、保護種の回復及び違法な取引に対処するための努力に対する世界的な支援を強化する。			
目標 1 5 以外			

記述式回答のため、回答文からキーワードを抽出して分類する方式でまとめました。

事前アンケート (2) 結果その1 「各種活動」

項番	ターゲット (要旨)	回答数	各種活動 (キーワード) ()内は複数回答件数
15.1	陸(森,野原,湖,川)の生態系保全	(38)	登山道整備(16)、清掃登山(8)、観察会研修会等(4)、水質調査、山岳トイレ(携帯・循環型・バイオ等)、崩壊危険箇所調査報告 ()内は複数回答件数
15.2	森林の減少阻止回復、植林増加	(11)	登山道整備(3)、下草刈・除草(3)、裸地斜面植林、崩落防止、シカ食害調査
15.3	砂漠化に対処	(0)	—
15.4	生物多様性、山地の生態系保全	(25)	生態系保全(10)、清掃登山(3)、行政関係機関連携(2)、裸地化植生復元、低木笹進出湿原の復元、シカ食害調査・柵設置、除草、
15.5	絶滅危惧種保護	(20)	高山植物パトロール(3)、希少植物調査と報告(2)、ヤマシャクヤク観察路整備、ライチョウ生息地の食性維持
15.6	遺伝資源の利用と利益の公正配分	(0)	—
15.7	動植物の盗掘、密猟、取引撲滅	(1)	行政関係機関連携
15.8	外来種の侵入、影響防止	(9)	登山道(周辺)駆除*1、特定外来種駆除イベント
15.9	生態系、生物多様性の行政計画化	(1)	行政関係機関連携
15.a	生物多様性、生態系保全予算化	(5)	行政との連携 (情報共有、資金・支援等)
15.b	持続可能な森林経営の資金調達	(0)	
15.c	保護種の密猟違法取引対処支援	(1)	ふるさと創生振興財団助成金
6.6	目標6 安全な水とトイレを世界に (6.6 山地湖沼の水の生態系保護回復)	(1)	バイオトイレの設置、携帯トイレの利用促進
12.4	目標12 作る責任使う責任 (12.4 生物多様性を含む山地生態系の保全)	(1)	登山道・自然歩道でのゴミ拾い

*1 駆除生物例：セイヨウタンポポ、アメリカオキアザミ、ジギタリス、オオハンゴンソウ、ウチダザリガニ

事前アンケート (2) 結果その2 「課題・目標」

区分	キーワード	課題・目標 (要旨)
ヒト	[A]参加者減少 会員減少 活動継続	<ul style="list-style-type: none"> ①残ったメンバー負荷増加 (開催準備や班長など行動スタッフの配置に支障。コースの難易度を下げざるを得ない等) ②現役世代は本業があり土日イベントの立案・参画できる余力がない ③活動継続に苦慮(しりすばみ) ④一般登山者が参加しても、稜線上の作業はきついため参加減少 ⑤メンバーの固定化、人数減少で活動制約 ⑥人数が少なく組織として活動できない(委員長1人の場合もある) ⑦自然保護活動への理解不足 ⑧山岳会の新入会員が少なく、会員減少は深刻な状況にある ⑨参加者を増やす為の方策模索 ⑩若者の参加者を増やす(参加魅力を増す)方策が見つからない ⑪若い世代の活動メンバー参加、交通費などの補助 ⑫以前から継続的に活動していたものが途絶えている
	[B]高齢化 若年層不足	<ul style="list-style-type: none"> ①若年層(特に10~40代)の参加が少ない ②参加呼びかけのより良い広報手段が思い浮かばない
	[C]活動人材要件 (体力,専門知識,技能)	<ul style="list-style-type: none"> ①作業に若者の力必要(機材運搬、稜線上の作業) ②登山道、斜面保全等には専門知識・技能が必要なケースがある
モノ (ツール)	[D]広報 (参加者募集等)	<ul style="list-style-type: none"> ①ホームページ等を通じて適正な広報が必要
カネ	[E]資金不足	<ul style="list-style-type: none"> ①交通費補助も十分支給できず、弁当程度 ②日当の支払い困難 ③財源が見つからない ④資金不足で新規内容の検討が進められない。資金不足で活動継続が困難

事前アンケート (2) 結果その2 「課題・目標」

区分	キーワード	課題・目標 (要旨)
活動内容	[F]登山道整備	①統一したガイドラインが共有されていない (関係諸機関と連携しガイドライン作成、共通理解要) ②登山道を外れないよう標識設置が必要(道迷遭難防止にも) ③地権者に無断で勝手にやっていたりいいものか、判断ができない (問題点に対する知識がない)
	[G]絶滅危惧種 希少種保護	①希少種の開花シーズン中、県外来場者多くなり登山道や自生地の荒廃懸念
	[H]外来種駆除	①絶滅までに至らない(イベントでの駆除、見つけた際に駆除する程度)
	[I] 許認可・届出等 (活動制限、手続負荷)	①国立公園内での活動が限定される、許可申請が負担 ②地域により括りが異なる。手続き(届け)が煩雑でやりづらい ③行政との合同取組みでは、限られたボランティア団体しか参加できず 参加者拡大が困難
	[J]活動レベル 継続生	①観察・学習レベルに留まり、自然保護活動のレベルの活動ができない ②一過性に終わらず、効果が上がるまで継続できるか ③組織だった活動を行いたいが、ボランティアでは限界がある ④ハイキング・ウォーキング大会の際にゴミ拾い実施しているが年1回で 拡大には至っていない
	[H]トイレ 携帯トイレ	①マナー啓発活動要 ②携帯トイレ普及には下山口で回収体制整備が必要
その他	[L]コロナ禍	①恒例行事をコロナ禍のため中止や規模縮小せざるをえない

アンケート集計結果 まとめ

アンケート 1

- (1) 近年SDGsの普及は進んでおり、内容についてはよく理解されていることがうかがえた。
- (2) 当委員会の自然保護活動は、目標15「陸の豊かさを守ろう」に含まれるが、関連する目標としては、特に14「海の豊かさを守ろう」に高い関心がある。

アンケート 2

- (1) 「陸の豊かさを守ろう」では具体策が12のターゲットとして示されているが、この中で活動項目として多かった回答は、**登山道整備、清掃登山、生態系の保全・回復、希少種・絶滅危惧種保護、外来種除去**等従来から取り組み続けている活動であった。
- (2) これは当委員会が従来から継続してきた活動がSDGs、持続可能な開発目標の一部として認められたということを示している。このことを、山岳自然愛好者だけの活動から、広い世代への活動へ広げていくきっかけとしてとえる好機とできないだろうか。
- (3) 一方、活動を継続していく上での**課題**も多く示されたが、最も多かったのは**活動人員の減少、高齢化**等、いわゆるヒト・モノ・カネの「ヒト」に関することであった。
- (4) その他にも、**具体的課題**や活動を進める上での**分らない点**等も記載されているので、後半の部で**意見交換、情報交換**を行いたい。

アンケートへのご協力ありがとうございました！

自然保護常任委員会の提案

最近、TVの報道番組や新聞・ネットなどで、特に環境問題・社会問題への取り組みとして、「SDGs」という言葉を目にしたたり耳にしたたりしない日はないと言っても過言ではありません。

アンケート1の結果分析でも3/4の方がその内容もご存じでした。

現在、日本はもとより世界中の国々が主として気候変動に伴う環境問題、貧困、紛争や人権問題、新型コロナ等の感染症などなど数多くの課題に直面しています。このままでは安定してこの世界で暮らし続けることが困難になっていくのではないかと。こうした心配が日に日に現実味を帯びてきています。

このような状況下、今回皆様にSDGsな活動について改めて考えて頂いた訳ですが、SDGsを具体的にそして**極簡単**に表せば、

「世界中にある環境問題・差別・貧困・人権問題といった課題を、世界のみならず2030年までに解決していこうという計画・目標のこと」と言えましょうか。

全国の自然保護委員会にお願いした、これまで取り組んできた「山の緑を守り、素晴らしい日本の山岳美を未来に残す活動」をSDGsの視点から捉えてアンケートにお答え頂く作業でSDGsは何も難しいことではないということ、私たちがこれまで続けてきた山岳環境を護る活動はまさしくSDGsな活動であることを再認識して頂けたと思います。

例えば

オーバーユースや自然災害で壊れた登山道を修復し、あるいはゴミを拾ってきた活動

絶滅危惧の植物を護り、森に蔓延る外来植物を駆除する活動

裸地化が進む山の斜面に木や草を植え、あるいは間伐し下草を刈る活動

トイレのない山岳地では携帯トイレを利用することを訴え、普及させてきた活動。

これらはすべて、SDGsが謳う生態系を保全する活動です。

SDGsの17の目標は直接・間接的に効果が波及・循環していく特徴があります。今回、「これまの」あるいは「今後の」活動がSDGsのどの目標に合致するか大変迷われたと思います。

自然保護活動と特に強く結びつくと考えられる目標15「陸の豊かさを守ろう」に関連付けて、例えば私たちがフィールドにしている山岳の構成要素であり、国土の7割をも占めまた多様な生物が生きる「森林」を護る活動について整理すると、次のようになると思われます。

『持続可能な管理のもとにある森林は、水を育み(目標6)、二酸化炭素を貯めて気候変動を緩和し(目標13)、山地災害の防止(目標11)にも貢献する』

つまり、私たちがこれまで取り組んできた山の緑を守り、素晴らしい日本の山岳美を未来に残す活動は、温暖化対策としてのカーボンニュートラルの一助になり得ますし、自然生息地の劣化を抑制することで生物多様性と生態系の保全を果たし、災害のリスクを軽減してSDGsが求める「誰も取り残さない持続可能な社会を作ること」に繋がる、いくつものSDGs目標に関連する活動と言えらると思います。

SDGsな活動がいくつもの目標に繋がり、またあらゆる場面で数限りなく存在することはおわかり頂けたと思いますが、今回JMCA自然保護委員会では、「森林の整備」活動を全国的に推進していくことを提案したいと考えています。

提案する理由は以下のとおりですが、そもそもの背景として、全国各地で目につく気象災害による山岳環境の激変があります。

山肌に倒壊した樹木を残す山、登山口へのアクセス道が復旧していない山域、登山道の崩落により通行止めとなっているコースも枚挙に暇がありません。その原因が地球温暖化によるものであることは、いくつものエビデンスが示しています。

一方、昨今のコロナ禍は、世界的な経済活動の急収縮を呼び、大幅な温暖化ガスの排出量減少という副産物をももたらしています。今後の景気回復に向けては気候変動への対応や生物多様性の維持をも目指す「グリーンリカバリー」が模索され、既に各国で様々な取り組みが始まっています。

日本でも2050年までに温暖化ガス排出量を『実質ゼロ』とする目標が示されました。経済活動を維持しながらCO₂の排出量と吸収量を差し引きゼロ（『カーボンニュートラル』）とし、持続可能な社会を目指そうというものです。

2015年の気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）で採択された「パリ協定」では、国際的な温暖化対策についての法的枠組みが示されましたが、森林を含む温室効果ガスの吸収源・貯蔵庫の働きを保全・強化すべきであることが規定されて、温暖化対策における森林の役割の重要性が明確に示された形となっています。

適正に手入れされた森林の吸収量だけがパリ協定削減目標達成に利用されることが認められていることから、適時適切な間伐等の森林整備を推進していくことが持続可能な社会に繋がることとなります。育成林を保全し、森林の面積を効率的に増やすことが吸収源対策につながることから、森林を伐採した後には適切に造林等の更新作業を行うこともまた重要となります。

今回、「森林整備」を全国的に展開することを皆様にお諮りしたところ、サポートがあれば条件付きも含めると8割強の都道府県が活動したいと回答していることは先にご紹介しました。

そしてその具体的に取り組みことが可能な活動としては「登山道整備」がトップ、次いで「外来種対策」、そしてその次が「植林」や「間伐・下草刈り」となっています。

さらに、活動する上での問題点として、「高齢化」「人出不足」「資金不足」「スキルがない」「活動に必須の器機が不足」等々が挙げられていました。

また併せて回答頂いた『委員会活動報告』によれば、「登山道整備」や「外来種対策」は既に多くの委員会が取り組んできている活動であることもわかりました。

そこで、常任委員会としてはSDGsな活動を活性化させるためにも、

①植林やその維持管理の活動を全国に提言していきたいと考えました。

そして

②地域の实情に併せた植林、森林保全活動を維持継続するために、各方面からの助成金や協賛あるいはクラウドファンディング（以下「助成金等」という）等により資金を調達していこうと思います。そしてその**助成金等活用実例を全国で紹介**していきます

③活動の実施に備え、植林、間伐や下刈り、伐採等々、各種の行事や講習会に参加して**林業について学び、森林整備を体験する機会を作ります**

④実際の活動を「登山月報」などに適宜紹介するなど、あらゆる機会を利用して**全国に発信し続ける**

等々の活動を継続していこうと思います。

これまで、単発で植林作業や間伐等の体験をしてきた方は多くいらっしゃると思います。

下刈りや間伐などがされず放置された森や、再生可能エネルギー創出の美名の下、ソーラーパネルを設置したり、風車を丘の景観とするために「皆伐」された里山が数知れないこと、

林業の効率化や観光のためか山の奥まで伸びた林道が昨今の異常気象による大雨で崩壊する例が後を絶たないことも多く見聞きされていると思います。

全国には手入れをされず放置された森や病害虫により枯死した林も数限りなくあります。温暖化対策のみならず生物多様性と生態系の保全を果たすことにも繋がる、まさしくSDGsな活動として全国にこれらを提案していこうと考える所以です。

「森林の整備」が、これまで取り組んできた「山の緑を守り、素晴らしい日本の山岳美を未来に残す活動」の一環であり、延いては温暖化対策としてのカーボンニュートラルの一助となり、自然生息地の劣化を抑制することで生物多様性と生態系の保全を果たし、災害のリスクを軽減してSDGsが求める「誰も取り残さない持続可能な社会を作ること」に繋がる活動であることは皆様納得されたと思います。

しかしながら、この活動が一見すると分かりやすい気候変動対策ではあるけれども、地球温暖化に対抗するためのCO2排出量削減の抜本的な解決策ではないことは十分理解して頂かなければならないと思います。「最大のリスクは、植林という言葉が醸し出す響きに惑わされ、実際よりも有意義な行動を取っていると思い込んでしまうこと、成長に著しく時間のかかる活動がカーボン・ニュートラルに直結する取り組みであると誤解することである」との厳しい指摘もあります。何十年もかけて膨大な数の樹木を植えて保護しても、世界的なCO2排出量のほんの一部を相殺できるに過ぎず、干魃、山火事、病気、または他の地域での森林伐採によって、長年の努力が無駄になる可能性が十分にあることも覚悟しなければなりません。

そして、何より**マンパワーの問題**があります。

今回のアンケートにも、活動に携わる方々の高齢化や人出不足を課題に挙げられた委員会が沢山ありました。新しい課題に取り組むか、資金調達の方法等も含め、以降の自由討議で検討したいと思います。

また、森林整備の実態を全国に発信する方法として、登山月報の投稿を全国リレー方式で行いことを提案致します。この具体的方法も後の討議の折りに話しあいましょう。

全国の山屋さんの協力をお願いする次第です。

2022年3月6日、29都道府県43名が参加して、2021年度の自然保護委員総会・全国委員長会議を開催しました。コロナ禍で多くの活動や会議が中止や延期を余儀なくされている中、何とか開催に漕ぎつけることができました。当委員会初の全国規模のWEB会議ということで相当な時間と労力を掛けて準備してきましたが、当日は不安定な音量や画面共有場面等に不手際があり、会議運営に多くの課題を残しました。とはいえ、これまでになく多くの地域からの参加を頂けたことは、まさしくWEB会議の優位性の表われでした。

当日の会議では、PCを通しての発言に不慣れな参加者も多々いらっしゃいましたが、お国言葉が飛び交う和気藹々の雰囲気の中にも真摯な意見交換が行われました。

総会に先立ち、全国の自然保護委員会がこれまで行ってきた活動および今後実行予定の活動をSDGsな視点で捉えるアンケートを実施、併せてそれらの活動を円滑に行うために何が問題となるかについて洗い出しをお願いし、全国39の都道府県からご回答を頂きました。活動がSDGsのどの目標に合致するか大変迷われたとのお声が多数ありましたが、当日の議論で、SDGsな活動がいくつもの目標に繋がり、またあらゆる場面で数限りなく存在すること、私たちがこれまで続けてきた山岳環境を護る活動はまさしくSDGsな活動であることを再認識されたと思います。

そして「山の緑を守り、素晴らしい日本の山岳美を未来に残そう」を大会スローガンとして決したことで、全国の自然保護委員会は各地域の実情にあった山岳環境保全活動を益々充実活性化させていこうとの思いを強くされたと感じました。



また、これまで発信力のなさから「活動が見えにくい」とのご批判を頂いてきましたが、少しでも「見える化」するために、全国の自然保護委員会のSDGsな活動を『登山月報』のこの連載にリレー方式で投稿していこうとの提案も了承されました。早ければ次号より、沖縄県から開始致します。連載が途切れることなく全国を巡りますよう、JMSCA委員会も協力していきたいと思います。

また今回、JMSCA委員会から「森林の整備」を全国的に展開することの可否をお諮りしたところ、サポートがあればの条件付きも含めると8割強の都道府県から活動したいと回答を得ました。これまで取り組んできた山岳環境保全活動の一環であり、延いては温暖化対策としてのカーボンニュートラルの一助となり、自然生息地の劣化を抑制することで生物多様性と生態系の保全を果たし、災害のリスクも軽減して「誰も取り残さない持続可能な社会を作ること」に繋がるSDGsな活動であるとの認識も共有できたと思います。

事前アンケートでは、具体的に取り組みことが可能な活動としては「登山道整備」がトップ、次いで「外来種対策」、そしてその次が「植林」や「間伐・下草刈り」となっています。さらに、活動する上での問題点として、「高齢化」「人出不足」「資金不足」「スキルがない」「活動に必須の器機が不足」等々が挙げられました。

また併せて回答頂いた近年の『委員会活動報告』によれば、「登山道整備」や「外来種対策」は既に多くの委員会が取り組んできている活動であることもわかりましたので、次年度からは「植林やその維持管理の活動」をメインに取り組んでいこうと考えています。回答頂いた問題点をクリアし、活動が順調に広がるような様々な方策を検討しています。

全国の山屋さん、「森林整備」活動の全国的な推進に是非ともご協力を賜りたくお願い致します。

なお、総会報告および事前アンケート結果等々の総会資料は順次JMSCAのHPにUPしていきますので、ご覧頂きたいと思います。

(自然保護委員長 小高令子)